

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 19年 4月 11日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 15時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	千寿園ケアホーム (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>中島 文作</u>
	氏 名 <u>山口 直美</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u>
	氏 名 <u>重田 さゆり</u> ヒアリングを行った職員数 (1)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671000240
法人名	医療法人 世光会
事業所名	千寿園ケアホーム
所在地 (電話番号)	指宿市十町2523番地 (電話)0993-24-3300
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年4月11日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年6月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	有()円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,680円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤病院 宮崎歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしての認知症高齢者グループホームの役割を管理者をはじめスタッフがよく理解し、ホーム独自の運営理念を大切にしながらケアが実践されている。また、運営推進会議においてそれぞれの立場から様々な問題が検討され、提供するサービスの質を高める上で当該会議が有効に機能している。運営母体である医療法人との連携や看護職員の手厚い配置により、入居者の日常的な健康管理に加え状態悪化時、また重度化した場合や看取りに関しても十分な体制が整っており、入居者及びご家族は安心してホームを利用することができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームの運営理念を説明文書に明記し家族等に説明するよう改善が求められたが、ホーム内の見やすい所に掲示するとともに、重要事項説明書に運営理念を明示し入居者やそのご家族に説明がなされ同意を得るよう改善されている。前回評価での改善課題に対し、管理者を中心に検討を重ね全ての課題に対し改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義が運営者や管理者により職員に対し十分に伝えられている。今回の自己評価に対しても、管理者を中心に各項目職員全員で検討がなされ、作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議においてホームの日々の活動や評価への取り組み状況が、都度詳細に報告されている。この会で出された問題点や要望に関しても、管理者を中心によく検討し改善に向けた取り組みがなされるなど会議が効果的に運営されている。 例)十五夜の月見会について報告した際、公民館長さんより地区の十五夜会(子供たちの相撲と綱引き)への参加のお誘いがあり、来年からの参加が決まった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や電話等により、ご家族の意見や要望・苦情など聞き取り、ホームの運営に活かせるよう、取り組んでいる。相談や苦情を表せる機会として、第三者委員会の設置も運営推進会議で検討されたが、管理者を含め職員に何でも言いやすい体制である事や、行政からも「何かあったら市役所へ直接連絡ください・・・」との働きかけがある事などにより、家族から今のところ必要ないとの意見が出され、その設置は見送られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	花見や夏祭り、敬老会などに出席し地域の方々と一緒に食事をしたり、地域貢献の一環として自主地域清掃作業(ゴミ拾いや除草)を行っている。日常においては、買い物や散歩など外出により地域の方々と触れ合う機会が多く提供されている。また、ホームの消防訓練においても、近所の方が積極的に参加して下さるなど、日常生活においてホームが地域に溶け込み連携が取れている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを提供する事業所として、住み慣れた地域の中で、これまでの生活を大切にしながらお互いの信頼関係のもと楽しく安心した暮らしを支えるべく、事業所独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はケアを実践する上での理念の大切さを職員会議や日常のケアの場面で職員に伝えている。職員もホームの運営理念を常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見会や夏祭り、敬老会など地域の主催する行事に積極的に参加している。また、地域貢献の一環として自主的に地域清掃作業(ゴミ拾いや除草)も行なうことで地域の方とのふれあう機会となるとともに生きがいの場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を職員全員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。また、前年度の外部評価の結果についても職員会議で報告され、改善を要する項目について全員で検討が行われ、質の向上に向けた具体的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者それぞれの立場から活発な意見交換がなされている。会議で提起された問題についても、次回会議において状況・経過報告がなされ、会議が効果的に運営されサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や運営推進会議の他、ホーム便りの配布や電話等で気軽に連絡を取り合う体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については面会の際や電話、手紙により報告がなされていますが、職員の異動についての報告が面会時以外は年に一度手紙でしか行われていない。そのため、職員の異動を知らないご家族もいらっしゃる。	○	ご家族とともに入居者本位のケアを実践していく上でも、職員の異動があった場合には、その都度、タイムリーな報告を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の人に家族の意見や思いを伝えるための手段として第三者委員会の設置を運営推進会議で検討したが、家族代表より現状ホームの管理者はじめ職員との間で十分意見を言える体制であるため当面必要ないという意見が出たため設置が見送られた。この事からも運営に関し家族の意見は十分反映されているといえる		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の採用時に長期間勤務できるかどうか確認を行ったり、働きやすい職場作りに努め離職を最小限に抑える努力がなされています。また、やむなく異動や離職が発生した場合も入居者の不安をなるべく軽減するよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、法人内外の研修参加を推進しているが、管理者や職員を各自の立場、経験や習熟度の段階に応じ育成するための計画が立てられていない。	○	全職員が一律ではなく、それぞれの立場、経験、地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて段階的に力をつけていくための事業所としての計画的な研修体制の確立に取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の理解の下、管理者や職員はグループホーム大会や連絡協議会等に積極的に参加しネットワーク作りに努め、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の入居者と馴染めるよう、事前の家庭訪問やホームの見学など、スムーズなサービス利用ができるよう取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という壁を作らず、日々の暮らしのあらゆる場面で、人生の先輩である入居者の昔ながらの生活の知恵や意見を聞きながら、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は勿論、日々の暮らしを共にする中で、それぞれの思いや希望を把握するよう取り組まれている。また、家族の面会時にも以前の暮らしぶり等聞きながら、その人らしい暮らしを送れるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、入居者本人はもとより、ご家族や職員から意見・情報の集約を行い、話し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月毎、介護計画の見直しが行われている。加えて、入居者の状態の変化に対応し、随時の計画の見直しも行われ、申し送り帳などを活用し計画変更の周知を徹底させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営母体が医療法人であることの強みを活かし、受診や入院の回避、医療処置を受けながらのホームでの生活の継続、重度化した場合や終末期を迎えた際の看取りに至るまで対応できる体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者本人及びご家族の意向を伺い、希望するかかりつけ医の受診を可能にするよう支援されている。定期的な受診支援や往診がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2006年4月に医療連携体制が整い、整備された「医療連携体制説明書」に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について、入居者及びご家族に説明し同意を得ている。また、同意を得たあとも、担当医を含めて話し合う機会を持ち、職員、ご家族を含む全員で方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人不在の居室への入室の際も必ず声掛けをし、了解を得た上で入室するなど、プライバシーに対する配慮がなされている。また、個人情報の取り扱いに関しても規定が整備され、十分な対応が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームにおける日常の大まかな予定はあるが、安全面に関わる事以外は、原則入居者お一人おひとりのペースや希望を優先するよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの嗜好が把握され、一人ひとりに対応されている。現在女性のみ入居のためか、食事作りや後片付けもそれぞれの能力に応じて大半の方が参加し、和気藹々と食事を楽しんでおられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合による午前中からの入浴ではなく、一日の疲れを癒すべく、毎日夕方の時間帯に入浴できるよう職員の勤務体制も配慮されている。体調の悪いときでも清拭や足浴を提供するなどそれぞれの状態に応じた支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや後片付け、洗濯物たたみや掃除など日々の暮らしの中でそれぞれの役割が自然と決まり、実施されている。それぞれの楽しみごとや気晴らしも把握され、定期的に外食を行うなどその人らしい生活が支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、日常的に外出支援がなされている。ホームに閉じこもりがちな入居者に対しても、それぞれの好みや趣味に合わせた企画を行い、戸外に出られるよう工夫されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを管理者をはじめ、職員が十分理解しており、安全面に配慮し職員の見守りを徹底することで、日中鍵をかけないケアが実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時には近隣からの協力が得られるよう、地区公民館長や住民との事前の話し合いがなされている。避難経路は目に付くよう表示がなされ、入居者に確認を取るなど日々の訓練も実施されている。夜間を想定した火災訓練も含め、昨年3回に渡り消防訓練が実施され、十分な対策が取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医療機関の管理栄養士と話し合いながら嗜好調査に基づき、本人の好む食べ物で必要な栄養が摂取できるよう支援されている。また、介護援助記録においてそれぞれの食事、水分量が記録され把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間における、テレビの音やBGM、光の強さなどはその時々の入居者の様子を見ながら調整されている。また、テーブルに花を活けたり、手作りの暦が飾られたり季節感を感じる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境づくりの大切さを家族に説明し、使い慣れた日用品や家族の写真、仏壇などの持込がなされ居心地のよい居室となっている。		